

小樽市人口対策会議(第2回)意見等概要(平成27年2月24日)

□「人口対策の検討に向けたポイント」に基づく取組等に対する意見について

■産業振興による働く場の創出・拡大

- ・毎年多くの事業所が減少していることは、地域にとって大きな問題。起業・創業については行政・大学・金融機関が連携し、地域全体として支援するという組織が必要。起業しても2~3年で廃業するケースが多く、事業を継続するという事は難しい。専門家の派遣など国の制度を活用し、計画や進捗管理など経営を側面から支援する体制を整え、中長期にわたり事業が継続するようにすることが大事。
- ・市内の工業高校では市外に就職するケースがほとんどである。市内の人材確保のためには地元企業で採用することが必要。
- ・子育て支援の基本は若者が生活できるための基盤や雇用の確保が必要なことから、持続可能または少しでも発展する企業環境を全市を挙げて作ることが大切である。こうしたことを目的とした中小企業振興基本条例を小樽市でも早期に制定すべきではないか。

■子育て支援と教育の充実について

- ・国のパッケージでも結婚、出産、子育てといった形で示されているため、このように幅広く考えていくほうがよいと思う。
- ・子どもを産みやすくするためには産休・育休を取得できる職場づくりが大事。一定程度の年齢以上の経営者は「子育ては女性」といった考えの人も多いので、子育て優良企業表彰制度などを設け、トップの意識改革を行うことが必要。しかしながら支えられるかどうかは企業のカモがあるので、経営基盤を何とかしなければならぬ。
- ・教育力の高い地域に人が集まるという傾向がある。教育力のボトムアップが人口対策の観点からも必要。

■生活環境の整備について

- ・新聞報道によると、小樽を離れる高齢者が非常に多いとのことであるが、これは高齢者にとって厳しい除雪がネックになっている。
- ・今、地域のつながりが希薄になっていることが子育ての上でも、高齢者が住み続けていく上でもネックになっている。町会のあり方をもう一度検討して心が通う近所づきあいをし、小樽は人情味があり他のまちより安全で安心であるというまちづくりをしていくことが大事。
- ・小樽は高齢者が他のまちより多いので、「高齢者が住みやすいまち」という観点も必要。
- ・生活環境の整備については、「楽しい空間」をつくることが大事。例えば子育てママさんのサークルに対する支援を行うなど、「心のふれあえる場所」をつくることは交通アクセスの整備より大切。
- ・小樽と札幌の境界に近い星置は教育環境もよく、また商業施設なども充実していることから人口が増えている。同様の人口増を目指し、JRほしみ駅周辺でも商業施設の誘致を進めてはどうか。
- ・地方から小樽商科大学に来た学生は小樽に住む人は多いが、家賃を考えると交通費を加えても大差がないことから、生活の利便やアルバイトの関係で札幌に住む学生もいる。
- ・小樽市が行っている移住促進事業について、雇用の場や居住に関しもっと民間と連携できればよいと思う。
- ・ふるさと納税について、市外の都市部に住んでいて小樽に戻りたいと考えている人も納税者として期待できると思うので、アプローチについて検討してはどうか。